

ロシア語ステップアップ講座

科目責任者：竹内高明（基本医学）

I. 前文

本講座は、ロシア語の基礎課程を修了した後、さらに進んだスキル（文法・読解・聴解・会話など）を身につけることを希望する学生を対象として開講する。具体的な内容・教材は、履修者の希望に応じて選定する。

II. 受入可能人数

人数は特に制限しない。

III. 担当教員

竹内高明（基本医学）

IV. 学習内容

履修者の希望に応じたテーマのテキストや視聴覚資料を用い、生のロシア語に触れながらコミュニケーション能力を高める。基礎課程で触れなかった文法項目については解説する。必要に応じ、ネイティブ・スピーカーとの会話練習も行う。

V. 学修の到達目標

1. ロシア語の基礎的文法知識と語彙を復習し、定着させる。
2. ロシア語による様々な場面での日常会話能力を向上させ、簡単なメールが書けるようにする。
3. さらに継続してロシア語を学ぶためのスキルを習得する。

VI. 成績評価の方法・基準

学習内容に応じて定期的に行う小テスト（各回10～15分）30%、口頭試験（一人15分程度）40%、課題の提出状況や出席を30%として評価する。

VII. 使用する教材・資料など

履修者の希望を考慮して教材（読解テキスト・視聴覚資料）を選定し、必要に応じてプリントを配布する。参考書として『大学のロシア語Ⅰ』（東京外国語大学出版社）を用いる。

VIII. 質問への対応方法

授業中に受け付けるほか、語学人文教育部門室（本部棟3階）でも対応可。後者の場合は事前に内線2200またはメールアドレスt-take@dokkyomed.ac.jpを通じてアポイントを取る。

オフィスアワー：月～金 9：00～17：00

IX. 求められる事前学習、事後学習*（ ）内は所要時間の目安

授業で用いる読解テキストや視聴覚教材を事前に読みまたは視聴し、語彙や文法事項の確認を行う（20分程度）。授業の内容に即して与えられる書面あるいは口頭の課題を準備する（20分程度）。

X. コアカリ記号・番号

A-7-2) 国際医療への貢献

①患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語に対応することができる。

B-4-1) 医師に求められる社会性

②自身が所属する文化を相対化することができる。

C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション

⑧文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

宿題や試験は事後に添削し、解説する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○